国際交流委員会　　　　　　　　　　　**報告**　　　　　　　　　　　委員長　久保義弘

委　員

岡村康司、○久保義弘、酒井秀紀、樽野陽幸、西田基宏、西谷友重、西村幸男、渡部文子

**報告書作成日**

2022年 2月 28日

**報告事項**

**[1] 第99回大会における国際交流委員会企画シンポジウムについて**

第99回 日本生理学会大会（仙台）における国際交流委員会企画シンポジウムについて、国際交流委員会で議論を行った。以下の2企画を立案して大会事務局に提出し、採択いただいた。コロナ感染状況を踏まえて、少なくとも海外の参加者はオンライン参加となる予定である。前回の理事会に提出した内容を一部改訂したものを以下に再記する。

------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**台湾生理学会（CPS）・韓国生理学会（KPS）・日本生理学会（PSJ）合同シンポジウム**

タイトル：

イオンチャネル – 生理と病態

（Ion channels in physiology and diseases）

オーガナイザー・座長：

　　日本生理学会：　　樽野　陽幸（京都府立医科大学大学院医学研究科）

　　韓国生理学会：　　Sung Joon Kim（ソウル国立大学医学部）

講演者：

　　Sung Joon Kim（ソウル国立大学医学部）

　　Chih-Yung Tang（国立台湾大学医学部）

　　Rizki Tsari Andriani（生理学研究所、現所属：大阪大学大学院医学系研究科）

　　沼田 朋大（秋田大学　大学院医学系研究科）

樽野　陽幸（京都府立医科大学大学院医学研究科）

------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ベルギー・日本合同シンポジウム

タイトル：

ロコモーション：　脊髄、脳幹、小脳、大脳皮質

（Hierarchical control of locomotion）

オーガナイザー・座長：

　　日本側：　　　　西村　幸男（東京都医学総合研究所）

　　ベルギー側：　Aya Takeoka（ルーベン脳研究所（ベルギー））

講演者：

Aya Takeoka（ルーベン脳研究所（ベルギー））

西村　幸男（東京都医学総合研究所）

中陦　克己（岩手医科大学医学部）

村上 誠祥（山梨大学 大学院総合研究部）

**[2] 第100回記念大会における国際交流委員会企画シンポジウムについて**

2023年3月の第100回記念大会においては、国際交流委員会企画のシンポジウム3件程度等を実施できるよう、大会本部と相談の上、準備を進めていく。IUPSの2022年、2023年の世界の生理科学関係の学会をハイライトするYear-of-Physiology と題した取り組みが進行しているので、それとのリンクも念頭に企画を進めていく。

**2022年事業計画**

上述の2022年3月の国際交流委員会企画シンポジウム2件において、招へいする近隣枠の韓国および台湾の講演者2名の旅費（上限15万円 x2）、 および遠方枠のベルギーの講演者1名の旅費（上限25万円 x1）、総計55万円（上限）を計上していただいていた。しかし、コロナ感染拡大の状況により3名ともオンライン参加となったため、招へい旅費は不要となった。これで、2020年、2021年、2022年と3年連続で、国際交流委員会企画シンポジウムのための招へい旅費の執行はゼロとなった。

2023年3月の第100回記念大会においては、オンサイトでの国際交流活動を再び活性化するために、また節目の大会であることから、特例的に例年より予算規模を拡大（上限25万円 x4 + 上限15万円 x2） していただき、海外からの招待講演者を増やして国際交流委員会企画シンポジウムを実施したいと考えている。

**理事会への提案 （議事として諮りたいことをお書き下さい）**

無し